

試合番号 : 210	試合会場 : このはなアリーナ (草薙総合運動場体育館)	観客数 : 2,300	
開始時間 : 13:00	終了時間 : 14:26	試合時間 : 01:26	
主審 : 澤 達大	副審 : 戸川 太輔		
東レアローズ	通算 8勝 15敗 ポイント: 28	堺ブレイザーズ	通算 10勝 12敗 ポイント: 31
監督コメント	0	3	今日の試合はサーブ・ブロッカーが非常に効果的に機能して素晴らしいゲームができました。まだまだ厳しいゲームが続きますが、一戦一戦戦い続けます。静岡に足を運んでくれたサポーター、結果を心待ちにしていたすべてのサポーターに感謝します。明日も引き続き応援宜しくお願いします。
要約レポート	V・ファイナルステージ出場へ向け、現在リーグ6位の東レアローズと、5位の堺ブレイザーズとの対戦。第1セット序盤、富松、星野と2連続ブロックで良いスタートを切った東したが、樋口のスパイクで連続得点した堺がリードする。終盤、樋口、高野を中心として、幅広く攻めた堺が点差を守り、25-21で先取した。第2セットは、堺のトールスがブロックの隙間を狙うスパイクで得点し、序盤の流れをつくる。東は梅野、富田を投入し流れを変えようとするが、堺のトールスの勢いは止められず、25-18で制した。第3セットは、堺の出張田のスパイクから始まり、関田、松本のブロックでこれまでの勢いを落とさずリードするが、東は梅野の多彩なトスワークで、富田らのスパイクが決まり流れを取り返す。中盤はどちらも譲らない展開となり、粘りを見せた東が追いついて20-20とするが、トールス、樋口のアタックにより差をつけた堺が勝利した。		

試合番号 : 211	試合会場 : このはなアリーナ (草薙総合運動場体育館)	観客数 : 1,700	
開始時間 : 16:00	終了時間 : 18:16	試合時間 : 02:16	
主審 : 西中野 健	副審 : 城 智人		
大分三好ヴァイセアドラー	通算 2勝 20敗 ポイント: 9	VC長野トライデンツ	通算 3勝 20敗 ポイント: 8
監督コメント	2	3	今日の試合はとても良い試合だった。初めてのフルセットを勝ち切れたのはとても良いことだ。チーム一丸となって取り組むことが出来た。まだ4試合残っているので油断せず、切り替えて明日の試合に挑みたいと思います。ファンの方々の声援もあったからこそ今日の一勝だったと思います。ありがとうございました。
要約レポート	現在共に2勝同数、お互い1勝したい大分三好ヴァイセアドラーとVC長野トライデンツの一戦。第1セット、序盤は大分三好がカンとVC長野パトリックの両方ポジションが得点を重ねる。中盤以降、VC長野・笠利の好サーブから攻撃の幅を広げたVC長野が一歩リードし、25-20でこのセットを取った。第2セット、大分三好が攻守のリズムを取り戻したが、VC長野・池田のサービスエースから流れを奪い返して逆転し、その後も勢いに乗ったままVC長野が25-18でこのセットを連取した。第3セット、両者とも譲らず一進一退の攻防が続く。大分三好は米田の2本のブロックポイントなどで終盤の流れを引き寄せ、25-23でセットを取り戻した。第4セット、第3セットで勢いに乗った大分三好は、ヤンや米田の緩急のついたサーブで相手の攻撃を崩してリードを奪い、そのままこのセットを25-23で連取した。第5セット、序盤から白熱した攻防が続く。VC長野・森崎が大分三好がカンの攻撃をブロックで抑え流れをつかむと、樺もブロックポイントを重ね、15-10でセットを奪い、VC長野がこの試合を制した。		

試合番号 : 212	試合会場 : パークアリーナ小牧 (小牧市スポーツ公園総合体育館)	観客数 : 2,700	
開始時間 : 13:00	終了時間 : 15:06	試合時間 : 02:06	
主審 : 浅井 唯由	副審 : 村中 伸		
ウルブドッグス名古屋	通算 8勝 14敗 ポイント: 26	JTサンダーズ広島	通算 19勝 4敗 ポイント: 56
監督コメント	1	3	第1セットは、サーブ・ブロックが機能せずリズムを掴む事が出来ず、セットを失ってしまったが、第2セット以降は、修正することが出来、試合をコントロールすることができた事が勝因だ。ファンの皆様、ご声援ありがとうございました。
要約レポート	5連勝中のJTサンダーズ広島をホームに迎えたウルブドッグス名古屋の一戦は、JT広島が勝利を飾った。第1セット、一点を競り合う展開が中盤まで続くが、WD名古屋はガスバリーニが得点を重ね徐々に点差を広げる。一方、JT広島は小野寺とエドガーが得点をあげても、大事な場面でミスが出て追いつくことは出来ずセットを落とした。第2セット、JT広島はエドガー、山本のアタックやブロックで5連続得点し9-2とリードする。WD名古屋は、前田がアウトサイドヒッター、ミドルブロッカーを使い分け得点し、さらに劉のブロックやアタックで流れをつかもうと奮闘する。しかし、JT広島は深津の速いトスを山本、陳がしっかり決め、WD名古屋を寄せつけずセットを奪い返した。第3セットは、WD名古屋は博田が速攻を決めると、JT広島は小野寺が速攻を決め反撃。その後、両者譲らず終盤までもつれこむが、JT広島のエドガーがアタック10本、ブロック1本決める活躍をしセットを連取した。第4セット、JT広島は、小野寺が5本のアタックを決めるなど、深津がミドルブロッカーを積極的に使い、リードを保って勝利した。WD名古屋は樺山がアタックで10得点をあげ、食い下がるも逆転出来なかった。		

試合番号 : 213	試合会場 : パークアリーナ小牧 (小牧市スポーツ公園総合体育館)	観客数 : 2,400	
開始時間 : 15:50	終了時間 : 17:18	試合時間 : 01:28	
主審 : 山本 和良	副審 : 中山 健		
パナソニックパンサーズ	通算 21勝 2敗 ポイント: 61	サントリーサンバーズ	通算 16勝 6敗 ポイント: 49
監督コメント	3	0	今日の試合は大変な一戦だったが、パナソニックパンサーズの気迫のあるプレーに引いてしまい自分たちのバレーが出来ませんでした。相手に向かっていく姿勢が足りない試合だったので、明日の試合に向けてしっかりと立て直していきたいと思っています。明日も引き続き応援宜しくお願いします。
要約レポート	パナソニックパンサーズが、サントリーサンバーズをストレートで下し、現時点での首位をキープした。第1セットは、パナソニックが中盤、山内と清水の連続ブロックを含む5連続ブロックで14-11と優位に立った。相手の一枚上手をいくセッター深津のトスワークが、自慢のアタッカー陣をうまく生かし、その後もパナソニックの思い通りのラリーが目立った。第2セットもパナソニックのペースは揺るぎなく、出だしからクビアクのサービスエースなどでリード。途中二度のチャレンジを成功させると大差でこのセットをものにした。18-13から久原のブロックや清水のサービスエースなどで一気に7連続得点を奪うなど、力強さを見せつけた。第3セットもパナソニックが主導権を握り、15-11と中盤までリードした。しかし後のないサントリーはここから粘り、ムセルスキーのアタックや小野のブロックなどで19-19と追いついた。その後、ムセルスキーの連続サービスエースで21-23と逆転を許したパナソニックだったが、切羽詰まった状況でも深津が速攻を決めさせるなど自分たちのバレーを展開し、24-23と再逆転。デュースになったものの、深津が味方のサーブプレッシュを両手で相手コートへ落として29-28とすると、最後は自身のノータッチサービスエースでゲームを締めくくった。		